



- ～関城地区 歴史探訪コース～
- 1 東睿山千妙寺 ▼約1.7km
 - 2 飯田軍蔵の墓所 ▼約0.6km
 - 3 関城跡 ▼約2.7km
 - 4 千人仏 ▼約2.1km
 - 5 花田神社 ▼約4.8km
 - 6 関本神社 ▼約2.1km
 - 7 船玉古墳

下館飛行場跡 (飛行場通り)
 この1600mに渡る直線道路は、昭和14年(1939年)に陸軍が建設した下館飛行場の滑走路部分。下館飛行場は、太平洋戦争へと戦局が進んでいくなか、軍事力の増強を目的に建設された。当初は熊谷飛行学校分教場、後には宇都宮飛行学校下館分校として少年飛行兵の訓練場であったが、やがて特攻隊員の訓練にも使用され、終戦間際にはこの地からも特攻隊が送り出された。敗戦後は、開拓者たちの大変な苦勞の末、現在は豊かな農地が広がっている。

7 船玉古墳 (県指定文化財)
 本墳は、一辺35m高さ4mの方墳。墳丘の南面に横穴式石室が開口している。石室は全長11.5mと県下最大の大きさを誇り、石室内には武器などの壁画が描かれている。周囲に8基ほどの円墳があり、古墳群を形成している。
 住所: 筑西市船玉247 船玉田園都市センター 付近

6 関本神社
 明治6年(1873年)4月、稲荷神社に当時関本村内にあった鹿島神社、若宮八幡神社、郡神社、神明神社を合祀、関本神社となった。関本神社には神楽殿があり、およそ300年前の江戸時代(享保年間ごろ)から伝承されてきた太々神楽(市指定無形民俗文化財)が、春の大祭(3月3日)と秋の大祭(11月23日)に一般公開される。また、境内には関城に梨栽培が普及した経緯と功績を記した「彰功之碑」がある。
 住所: 筑西市関本上1404

アグリショップ夢せきじょう
 地元の農産物販売所。一年を通して新鮮な野菜などが販売される他、梨の季節には関城地区の梨が数多く並ぶ。販売される梨は、8月上旬から10月下旬にかけて幸水・豊水・あきづき・新高・いっこりへと品種が移り変わる。
 TEL: 0296-37-1020
 住所: 筑西市舟生1073-289

五郎助山
 茨城県フィールドパーク100選の一つにも選ばれ、自然な姿での里山体験ができる。NPO法人里山を守る会によって整備され、敷地内には緑豊かな林や池などがあり、夏季には蛍の放流が行われる。(要確認)
 TEL: 0296-37-1239(事務局 月・水・土のみ)
 住所: 筑西市上野1073

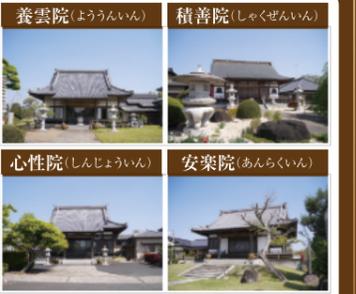
6 花田神社
 嘉永2年(1849年)から安政5年(1858年)にかけて、二宮尊徳による復興事業(尊徳仕法)が花田村とその周辺で実施された。花田神社境内には二宮金次郎像が鎮座し、神社周辺の花田田園都市センターには花田仕法の説明文がある。また、当地の田崎家には、尊徳仕法の水車と一斗樹が残されている。
 住所: 筑西市花田1

3 関城跡 (国指定文化財)
 南北朝争乱の時代、小田城などと共に南朝方の拠点であった城。城主であった関宗祐、宗政父子の墓「宝篋(ほうきょう)印塔」や、北朝方の武将で関城攻撃で戦死した結城直朝の墓がある。また、興国2年(1341年)小田城から移った北畠親房は、同4年(1343年)城の陥落前までこの城に留まり「神皇正統記」を完成させた。
 住所: 筑西市関館1ほか

4 千人仏 (市指定文化財)
 天明3年(1783年)浅間山の大噴火や、同年から5年に渡って続いた天明の大飢饉により餓死する者が続出した。人々は、これらの死者の霊を慰め、その冥福を祈ると共に、再びこのような災害が起こらぬよう加護を念じ、不動明王など五大尊及び千人の法体を刻んだ。
 住所: 筑西市関館239 関館田園都市センター

2 飯田軍蔵の墓所 (市指定文化財)
 飯田軍蔵貞直は、天保3年(1832年)当時の木戸村に名主軍吉の長男として生まれ、15歳のとき江戸に出て安積良斎に師事し、後に水戸講道館に学ぶ。元治元年(1864年)、水戸藩攘夷派(天狗党)の志士と共に筑波山にて拳兵、幕府軍と戦い戦功を立てたが、幕府軍に捕らえられ獄死した。後に靖国神社に祀られ、大正7年(1918年)には正五位を贈られた。

1 東睿山千妙寺
 承和年間(834~848年)、慈覚大師円仁(えんにん)の創建と伝えられる寺。平将門の乱により焼失したのち、観応2(1351)年、崇光天皇の命を受けた亮守(りょうしゅ)により現在地に再興された。山号の「東睿山」は「東の比叡山」を意味し、「千妙寺」の名は、亮守が写経した千個の石を埋めたことに由来するといわれる。千妙寺は「天台宗三昧流」の関東での拠点及び「伝法灌頂道場」(密教の法と位を受ける重要な儀式の場)として栄え、盛時には7か国700余りの末寺・門徒寺を数えたといわれる。天正18(1590)年には豊臣秀吉より下馬札が、慶長9(1604)年には徳川秀忠から寺領100石が与えられている。室町時代から今日まで続く、上野寛永寺等と並び天台宗の名刹。
 ▲曼珠沙華は9月中旬~下旬が見頃
 ▲総本堂(釈迦堂)(市指定文化財)
 天正11(1583)年の落慶であるが、享保13(1728)年に全焼、元分3(1738)年に再興され今日に至る。平成25年に4年間の半解体修理が完了し、建築当時の姿を取り戻した。



千妙寺に伝わる寺宝をみる
 千妙寺・寺史展示室
 古来から伝わる寺宝(文化財・歴史的資料)3,600点の中から20~30点が展示され、鑑賞できる。現在春と秋の年2回、展示替えをされている。

豊臣秀吉の禁制
 安土桃山時代 天正18年(1590年)
 天正18年(1590年)秀吉は全国制覇を遂げるが、関東各地の治安は乱れ秩序保持は急務という社会情勢の中、この禁制により、千妙寺関係者への不法行為を禁止すると共に、天下人として関東に自己の存在を誇示した。

徳川家康朱印千妙寺法度
 江戸時代 慶長18年(1613年)
 この法度は、千妙寺を本山とし、末寺はその指示に従うことを命じている。徳川家康(江戸幕府)は千妙寺の支配を通じて、地域の天台宗全体の統制を図った。

